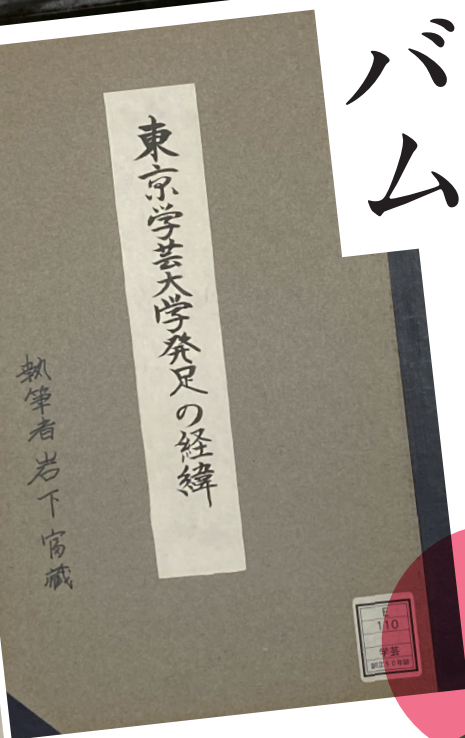


Gakugei
Album
2022
Spring

東京学芸大学のあゆみ
學藝アルバム



- 写真上：旧図書館棟とその周辺「昭和44年撮影 創立20年誌写真資料」(1969年)
- 写真下・左：「小金井校のむかしむかし」(1948年) 出典：『撫子八十年』(撫子会、1988年)
- 写真下・右：岩下富蔵「東京学芸大学発足の経緯」(1951年)

東京学芸大学の創設とキャンパスの移り変わり

【会期】2022年4月12日(火)～6月24日(金)

【時間】[平日] 10:00～16:00

【場所】東京学芸大学附属図書館3階 大学史資料室

【問合せ先】東京学芸大学大学史資料室 [電話] 042-329-7277

[メールアドレス] shiryou@u-gakugei.ac.jp





新たな大学史資料室常設展示によせて

東京学芸大学大学史資料室は、附属図書館の増築完成に伴い、2021年度新しく図書館3階に事務室と閲覧室を開設しました。これを機に、大学史資料室では、毎年実施してきた展示会に代えて、常設展示を行っていくこととしました。これは、東京学芸大学大学史資料室の設立から10年を迎えるなかでの新しい試みです。私たちは、大学史資料室の機能をよりいっそう高め、新たな地平を切り拓くにふさわしい常設展を創り上げていきたいと考えています。

大学史資料室は、本学の運営及び教育研究等に関する重要な資料、また本学の歴史に関する重要な資料をそれぞれ調査・収集し、その資料の整理、保存及び公開を行うことを任務として出発しました。これは、わが国の教員養成の中核をなしてきた本学の位置を鑑みれば、明治期以来の日本の教員養成の歩んできた歴史の資料を調査・収集し、それを保存・公開していくことと重なります。その意味で、常設展示の実現は、整理・保存してきた資料を継続的かつ安定的に公開する機会を用意できたものであり、その意義は非常に大きいといえます。

この新たな常設展示は、年間テーマを設定し、1年間を4～6月、7～9月、10～12月の三期に分けて展示内容を換えていきます。そしてこれを2年サイクルで回し、1年目のテーマは「師範学校の歴史をふり返る」、2年目は「東京学芸大学のあゆみ」とし、戦前から戦後の本学と教員養成の歴史を辿ります。

今期は4月12日から展示を開始し、今回のタイトルは「東京学芸大学の創設とキャンパスの移り変わり」です。この展示では、東京学芸大学が新制大学としていかに創設されて、その後に発展し、現在に至るかを、資料や写真から紐解いていきます。大学の設立過程や創成期の大学の様子を実感頂けるように、大学創成期から1960年代までの小金井キャンパスの変遷について、現在のキャンパスの様子も織り交ぜつつ、諸資料を展示します。展示資料は、大学設置の過程について描いた資料『東京学芸大学発足の経緯』や木下一雄初代学長の手による入学式の式辞、大学校章入りの皿や職員章、小金井キャンパスの移り変わりがわかる地図や写真など、多岐に亘ります。

2023年東京学芸大学は、1873年に東京府小学教則講習所として設立されてから150年目の「創基150周年」を迎えます。

新型コロナウイルス感染症の影響がまだ予断を許さない状況ではありますが、私たちは小さくとも確実な歩みを止めることなく、一步一步未来に向けて歩んでいきます。この世界的な危機が乗り越えられたとき、常設展示に映し出される東京学芸大学とそこで学ぶ学生の歩みが大きく前進していることを願っています。

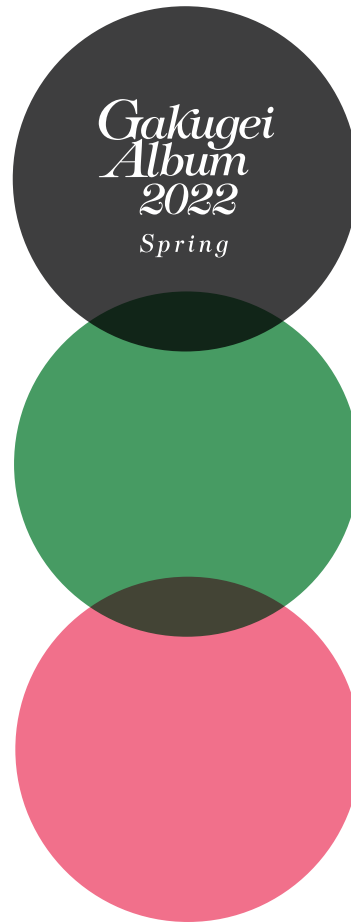
2022年4月12日

東京学芸大学大学史資料室長
副学長・附属図書館長

川手 圭一



●写真左：東京学芸大学庶務課「学報」第1号(1952年)、第10号(1953年)



東京学芸大学のあゆみ
學藝アルバム

東京学芸大学大学史資料室常設展示

